設楽発掘通信

No.1
平成２６年
６月１日号

設楽ダム関連発掘調査 開始

設楽ダム関連事業に関わる広大な工事予定地には、数多くの遺跡が分布しています。工事によって改変される範囲については、事前に発掘調査を行ない、記録を残さなければなりません。

調査は、愛知県埋蔵文化財センターが中心となって行ないます。調査を円滑に行うには、地元の皆様にご理解を頂くことが最も大事と考えています。

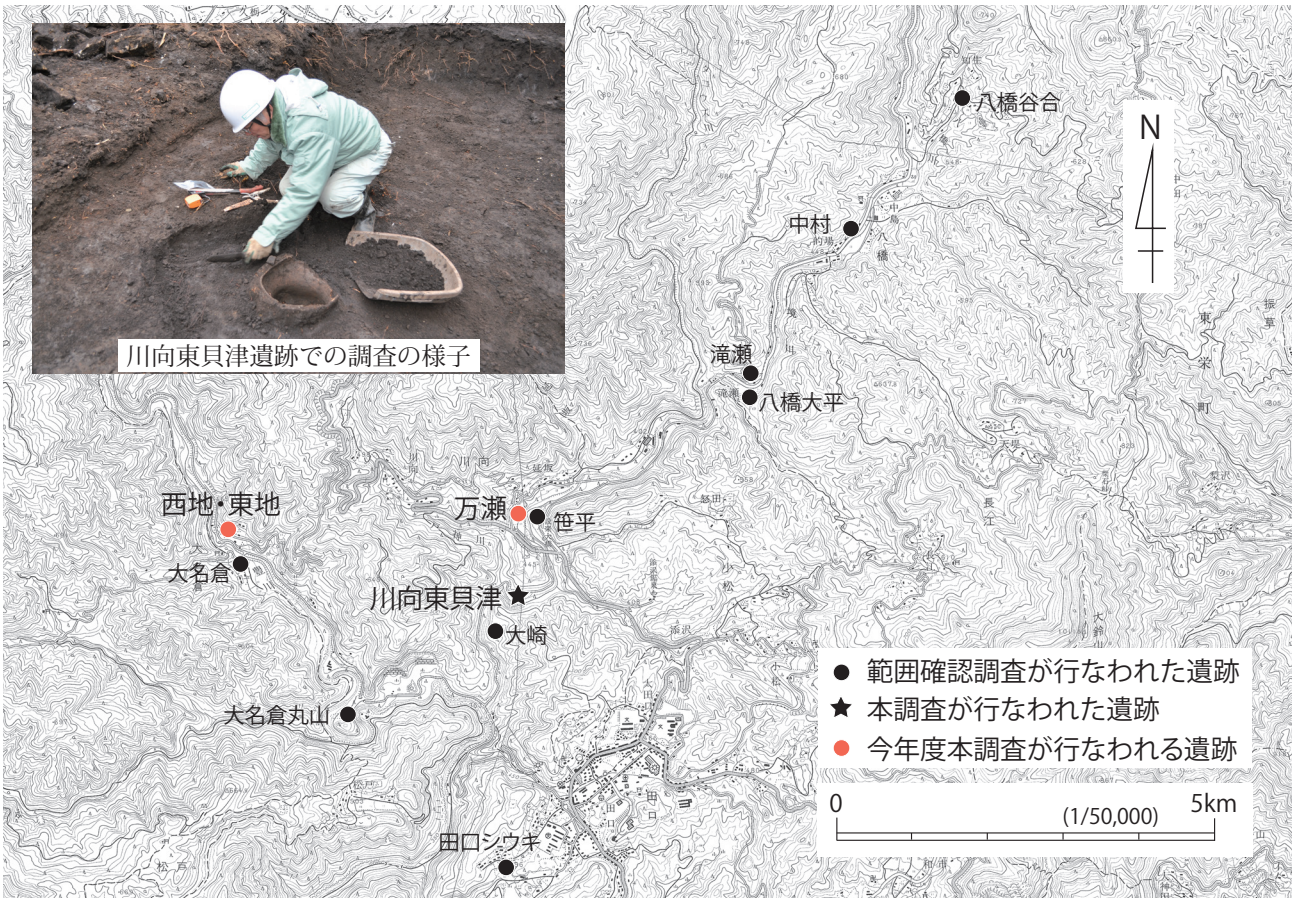
今後は、本紙をはじめ、調査成果などを町の皆様にもお知らせする予定です。何卒、よろしくお願い申し上げます。

埋蔵文化財について

埋蔵文化財とは、地中に存在する文化財のことで、法律上保護の対象となっています。学術的には考古学を拠り所としており、対象地は遺跡といわれます。

遺跡は、遺構（建物跡など動かせないもの）および遺物（土器など動かせるもの）に分けられます。遺構や遺物は、その種類や、遺跡の中でどのように存在しているのかが、とても重要です。それは、当時の文化や社会を考える上で、大事な証拠となるからです。

かけがえのない埋蔵文化財ではありますが、調査されずに工事が行なわれると、貴重な証拠が失われてしまいます。その前に考古学的手法で調査・記録を行なうことができれば、大事な証拠として、今後も残す（保護する）ことができ、活用することもできるのです。



本紙関連遺跡の位置図（国土地理院刊行２万５千分の１地形図「田口」を 50% に縮小）

これまでの調査

設楽ダムに関連する調査はこれまでにも行なわれてはいますが、その多くは遺跡の有無確認および範囲確認調査という、いわば予備調査が中心でした。これらの調査は、限られた面積の試し掘りなので、明らかになった内容も断片的です。今後行なわれる本調査で明らかとなる内容とは、大きな差がありますが、ここでは愛知県埋蔵文化財センターの調査によって確認された内容について整理しておきます。

これまで範囲確認調査が行われた遺跡は、次の通りです。

平成十八年度：小松【笹平遺跡】、川向【川向東貝津遺跡】、
大名倉【大名倉丸山遺跡】
平成十九年度：八橋【滝瀬遺跡、八橋大平遺跡】、田口【大崎遺跡】、
大名倉【大名倉遺跡】
平成二十年度：小松【笹平遺跡】、川向【万瀬遺跡】、大名倉【大名倉遺跡】
平成二十一年度：川向【万瀬遺跡】、八橋【中村遺跡、八橋谷合遺跡】、
田口【田口シウキ遺跡】
平成二十四年度：八橋【滝瀬遺跡】、大名倉【西地・東地遺跡】
平成二十五年度：川向【万瀬遺跡】、八橋【滝瀬遺跡】、
大名倉【大名倉遺跡、西地・東地遺跡】

以上の調査の所見を遺跡別にまとめると、次のようになります。川向の万瀬遺跡と、大名倉の西地・東地遺跡については、後で述べます。なお、遺跡名下の（ ）は、県教育委員会の分布調査によって示された時期です。

○**笹平遺跡（縄文・弥生・平安）** 標高３９０メートルほどの、境川左岸段丘上の平坦地に立地しています。十八年度の調査では、江戸時代の陶器片を含む落ち込みが見つかっています。二十年度調査では、土器・石器を含む、縄文時代の遺物包含層が見つかっています。また、時期不詳ではありますが、土坑・溝などのほか、竪穴建物跡に伴うと考えられる焼土も見つかりました。

○**中村遺跡（縄文・平安～室町）** 標高４４０～４７０メートルの、境川右岸の河岸段丘上から山麓にかけて立地しています。二十一年度の調査では、平安時代から江戸時代までの遺物が出土し、土坑などの遺構が見つかっています。調査では、礎石と考えられる礫の出土や、加工痕が残る木材も出土しました。

○**滝瀬遺跡（縄文・室町・[戦国]）** 標高４２０～４３８メートルの、境川右岸の河岸段丘上から斜面地にかけて位置しています。十九年度の調査では縄文土器・打製石斧などの石器が出土したほか、土坑および竪穴建物跡の可能性がある遺構も確認されています。二十四年度の調査では、縄文時代の土器片や石器類が出土し、土坑などの遺構の存在も確認されました。

○**八橋谷合遺跡（平安）** 標高４６０～４７５メートルの、境川右岸の河岸段丘上に立地しています。二十一年度の調査では、江戸時代の陶磁器類のほか、石積列のある平坦面や建物跡の根石なども見つかった。

○**八橋大平遺跡（縄文・平安）** 標高４２５～４４５メートルの、長江川右岸の山麓緩斜面に立地しています。十九年度の調査では、平安時代の灰釉陶器片や江戸時代から近代にかけての陶器片などが採集されました。

○**大崎遺跡（縄文・平安・戦国）** 標高３６３～３７８メートルの、境川左岸の緩く傾斜する平坦面に立地しています。十九年度の調査では、時期は不明でありますが、土坑が見つかっており、縄文土器・石鏃・平安時代の灰釉陶器・室町時代の古瀬戸・江戸時代の陶器片が出土しました。

○**田口シウキ遺跡（平安～室町）** 標高４４０～４６０メートルの、江ク沢川に面した緩斜面に立地しています。二十一年度の調査では、江戸時代より古い時代の土坑が見つかったほか、江戸時代の土坑・溝も見つかりました。

○**大名倉遺跡（縄文・[弥生]・平安～戦国）** 標高４２８～４４８メートルの、豊川（寒狭川）右岸の河岸段丘から山麓傾斜面にかけて立地しています。かつては下谷遺跡と言われていた大名倉遺跡は、早稲田大学が昭和四十三年に調査を行った遺跡で、河岸段丘上では、縄文時代の遺構・遺物が出土しましたが、大名倉遺跡の範囲は、より山側の高い区域にまで及ぶと考えられています。十九年度の調査では、近世から近代にかけての陶器片が採集されました。二十年度の調査では縄文土器・石器を含む遺物包含層が見つかり、土坑も確認されました。二十五年度の調査では、平場で土坑などの遺構が検出されています。

周囲からは江戸時代の遺物が出土したようです。

○**大名倉丸山遺跡（戦国）** 標高３８６メートルの豊川（寒狭川）左岸の河岸段丘上に立地しています。十八年度の調査では、県教育委員会によって遺物包含層が確認された周囲から鉄滓（鉄器生産の際に出る屑）を採集しました。

川向東貝津遺跡の発掘調査

平成二十二年度には、川向東貝津遺跡の発掘調査が行われました。この調査成果について、簡単に紹介します。

遺跡は、標高３７０～３８０メートルの、境川右岸の河岸段丘上に立地しています。愛知県教育委員会の分布調査報告では、縄文時代および平安時代末から鎌倉時代の遺跡として知られています。期間は、平成二十二年十一月から翌二十三年の一月まで行なわれ、遺跡範囲の北半分３８４平方メートルが調査対象となりました。調査区は、山側の傾斜面から緩斜面へと変化する場所にあたりました。

調査の結果、山側傾斜面では土砂の堆積が著しく、江戸時代末頃の遺物がわずかに出土しました。一方、緩斜面側では、縄文土器三十片ほどと、時期不明ながら土坑が五基見つかりました。

特に注目すべき遺構に、土器埋設遺構があります。調査では、掘り込みなどは確認できなかったようですが、本来は土坑の中に埋設されたものと考えられます。土器の器形は深鉢で、現存する状態で、径約３０センチメートル、器高も約３０センチメートルありました。口縁部が欠損していますが、後世の活動によるものの可能性もあります。一方で底部も欠損していますが、これは縄文時代のヒトたちが埋設する際に意図的に打ち欠いたものと考えられます。土器埋設遺構については、幼児などの埋葬に用いられたか、あるいは貯蔵用に用いられたのかなど、諸説ありますが、前者の意見が多いようです。いずれにしても、当遺跡を基として、縄文時代のヒトたちが活動していたことは確かです。

この土器埋設遺構に使われた深鉢は、縄文時代の後期の最も古い段階に属します。今から約四千年前のものと考えられます。

川向東貝津遺跡全景（西より）
★の場所が、土器埋設遺構の検出地点

土器埋設遺構の検出状況

沈線に囲まれた中に、縄目が施されている縄文土器です。沈線は曲線を描き、平行する弧状などが土器の胴部全体に施されています。口縁は、緩やかな波状を呈しています。

礫が詰められた土坑

平成二十六年度の本調査

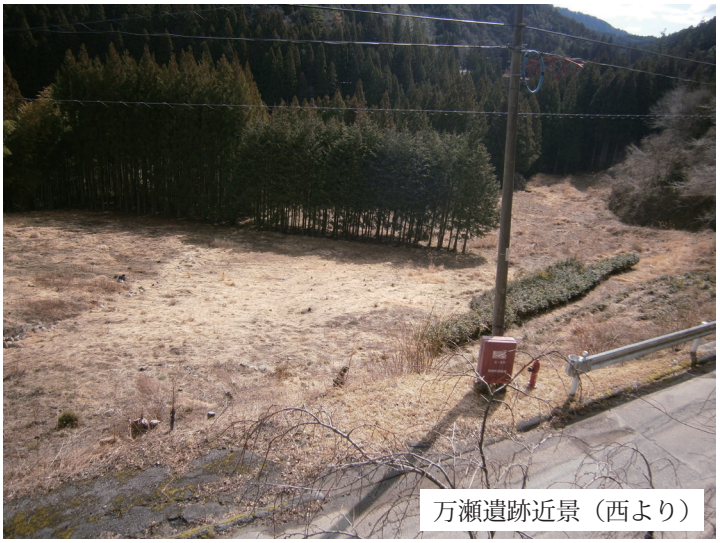
本年度は、川向の万瀬遺跡と、大名倉の西地・東地遺跡を調査しますので、この二遺跡について紹介します。

○万瀬（まんぜ）遺跡（縄文・平安～戦国） 標高３９５～４２０メートルの、境川右岸の東向きの山麓傾斜面に立地しています。二十年度の範囲確認調査では、調査地北側の畑地内で、灰釉陶器・山茶碗の破片、および石器片が採集されています。二十一年度の調査でも、戦国時代から江戸時代にかけての遺物包含層および遺構・遺物が見つかりました。二十五年度の範囲確認調査でも、遺跡の北西斜面際の平坦地で、戦国時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認されました。さらに、遺跡範囲の中央や北側斜面際では、縄文土器・石器が出土しました。

今年度は、遺跡範囲の中央付近、２０５０平方メートルが調査対象となります。調査は７月から開始します。担当は、愛知県埋蔵文化財センター主任専門員の鈴木正貴です。

○西地（にしじ）・東地（ひがしじ）遺跡（縄文・平安～戦国） 二十四年度の範囲確認調査では、調査地の西側で、土坑から縄文土器片が出土しました。調査地の真ん中では、時期不明の石積や石列が見つかっています。戦国時代や江戸時代の遺物も出土しています。調査地の東側では谷地形が見つかっており、縄文土器・中世の山茶碗や江戸時代の陶器片などが出土しました。また、二十五年度の範囲確認調査でも、縄文時代の石鏃や、室町時代の宋銭も出土しました。

今年度は、遺跡範囲の西側を中心にした４２２０平方メートルが調査対象となります。調査は５月末から開始します。担当は、愛知県埋蔵文化財センター 調査研究主任の川添和暁です。


万瀬遺跡近景（西より）

西地・東地遺跡近景（東より）

設楽発掘通信

No.1

平成２６年６月１日号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒４９８-００１７　愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４
電話　（０５６７）６７-４１６１【管理課】　４１６３【調査課】
ホームページ　http://www.mai bun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　ナカシャ クリエイテブ 株式会社